

ロジクールRALLY BARアプライアンス(ZOOM ROOMS用)のANALYST GAUNTLET

フロスト&サリバンのAnalyst Gauntletは、系統的なレビュープログラムです。プログラムに参加するベンダーやサービスプロバイダーは、業界アナリストに向けて自社のコラボレーションソリューションの詳細な解説やデモンストレーションを行います。その後アナリストが、コラボレーションソリューションを実際に一定期間使用し、ユーザー体験の率直なフィードバックを提供します。

フロスト&サリバン Connected Workリサーチ チームは、ロジクールの新しいビデオ会議デバイスであるRally Barを評価しました。Rally Barは、2021年2月発売の一体型コラボレーションバーです。カメラ、マイク、スピーカー、組み込みのAndroidコンピュータ/処理ソフトウェアを搭載しています。Rally Barは、新しいロジクールRallyファミリーにおいて、中会議室向けモデルに相当します。Rallyファミリーを構成する一連のインテリジェントエンドポイント機器には、小会議室向けのRally Bar Mini、大会議室向けのRally Plusもあります。

ロジクールでは、Rally Barを「一般的なビデオ会議サービスと密接に連携する最先端ソリューション」として位置づけ、3種類の導入モードを用意しています。

- アプライアンスモード。Androidベースのスタンドアロンソリューション
- USBモード。会議室用Windows PCおよびMacと接続
- BYOD (Bring Your Own Device) モード

本レビューでは、Rally BarをZoom Rooms用のアプライアンスモードで設定、設置、管理して、使用します。これを、現地でIT部門によるサポートを受けられないリモートユーザーの立場として行い、そのユーザー体験を詳細にレポートします。機器構成は、Rally Bar、ロジクール Tap会議室用タッチコントローラ、Samsung製42インチ4Kテレビ(会議室用ディスプレイとして利用)です。テレビとRally Barは、会議テーブルから約2m離れた標準的な高さの台に設置しました。当社の中会議室では拡張マイクや追加スピーカーは必要ありませんでした。届いたときのRally BarとTapは、各コンポーネントおよびケーブルともに、緩衝材でしっかりと保護されて梱包されていました。

出典:フロスト&サリバン

ロジクールRALLY BARアプライアンス(ZOOM ROOMS用)のANALYST GAUNTLET

続き

本評価で使用した主要コンポーネント:

Rally Bar

Rally Bar本体の寸法は幅910mm、高さ164mm、奥行き130.5mmで、レンズ奥行きは28.8mm

- 重量は7.08kg
 - 内蔵AIビューファインダーおよびPTZ(パン・チルト・ズーム)カメラに加え、スピーカーx2および集音範囲4.5mのビームフォーミングマイクx6のオーディオ機能を搭載
- リモコン



PTZカメラ

- 解像度: 4KおよびSD@30fpsに対応
- パン: 電動式±25°
- ティルト: 電動式±15°

メインカメラ

- ズーム: 15倍HDズーム(5倍光学、3倍デジタルが、今後のソフトウェア更新により利用可能)
- 画角: 90°
- 会議室内のカバー範囲: 水平画角82.1°、垂直画角52.2°

会議室内の総カバー範囲(画角 + PTZ): 水平163° x 垂直110°

オーディオ - スピーカー

- ドライバ: 70mmx2
- 出力: 90dB SPL @1W、99dB SPL @8.0W、共に+/-2dB @ 0.5メートル
- 感度: 90+/-3dB SPL @ 1W、0.5メートル
- 全高調波歪み率: 1kHz < 2%
- スピーカーサンプリングレート: 48kHz

ロジクールRALLY BARアプライアンス(ZOOM ROOMS用)のANALYST GAUNTLET

続き

オーディオ - マイク

- 周波数特性: 90Hz~16kHz
- 感度: >-36dBFS +/-1dB@1Pa
- マイクのデータレート出力: 48kHz
- 集音範囲: 4.5m
- 無指向性デジタルMEMSマイクx6を含むビームフォーミング要素が5方向のアダプティブ音響ブロードサイドビームを形成
- AEC(アコースティック エコーキャンセレーション)、VAD(音声区間検出)によるオーディオ処理
- ノイズ抑制AIフィルター
- 最大3台までの追加のRallyマイクポッドで、会議室内のカバー範囲を拡張可能

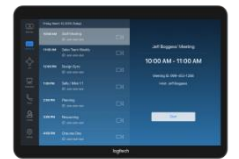
接続性

- HDMI出力ポートx2、HDMI入力ポートx1
- USB-Aポートx3、USB-Cポートx1
- 100/1Gイーサネットポートx1
- 802.11a/b/g/n/ac WiFi
- ロジクールRallyアクセサリ専用外部マイク入力
- Bluetooth Low Energyリモコン



Tap会議室コントローラ

- 寸法: 幅244 mm、高さ58mm、奥行き179mm、重量: 1.25kg
- タッチスクリーン: 10.1インチ、ディスプレイ角度14°、解像度1280 x 800
- 対応OS: Windows 10、Chrome OS(バージョン80以降)、ロジクールCollabOS
- インターフェイス: USB 2.0/3.0/3.1タイプC(Rally用)、USB 2.0(アクセサリ用)、HDMI(ビデオおよびコンテンツ用)、3.5mmヘッドセットジャック



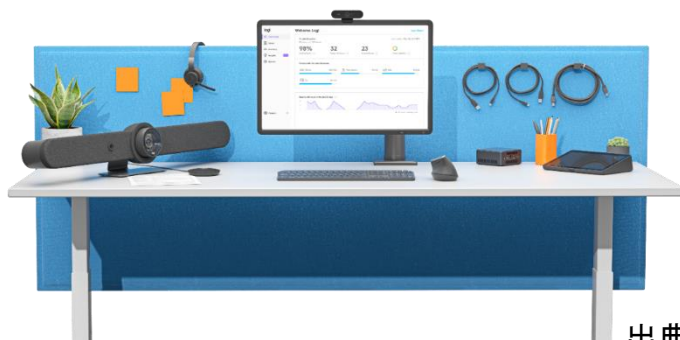
ロジクールRALLY BARアプライアンス(ZOOM ROOMS用)のANALYST GAUNTLET

続き

管理者体験

- 一体型エンドポイント機器であるロジクールRally Barは、内蔵されたAndroidコンピュータで、オンボードのオーディオ/ビデオハードウェアの制御とZoom Roomsソフトウェアの実行を処理します。これにより、会議室用コンピュータを必要とする会議室ソリューションに比べて、設置、設定、管理が必要なコンポーネントの数を少なく抑えられます。また、各参加者が会議室に持ち込むさまざまなデバイスと比較しても、専用のコンピュータが用意されている場合のほうが、安定した信頼性とパフォーマンスが発揮されます。コンピュータが内蔵されている場合、各参加者は、メモを取ったり、会議チャットを使用したり、コンテンツを共有したりといった他のタスクに自分のPCを利用できます。コンピュータ内蔵のフォームファクターと、Rally BarおよびTapコントローラに組み込まれたロジクールが重視するケーブル管理機能により、すっきりと設置できました。
- Rally Barには複数の導入オプション(Windows PC、アプライアンス、USB、シングル/デュアルモニター)があるため、設置ガイドも多数、ロジクールウェブサイトで公開されています。今回の体験では、設置作業そのもの(20分弱)よりも、今回の構成に適した設置図を見つける作業のほうに時間を取られました。
- Tapを、Rally BarおよびZoom Rooms会議ソフトウェア用の会議室コントローラとして、テーブル上に配置しました。本評価では、TapとZoom Rooms管理者用ウェブポータルを使用して、Rally BarとZoom Rooms機能の設定、コントロール、調整を行いました。TapおよびRally Barリモコンを使用して、カメラプリセットの選択や音量調節などのデバイス設定を行えます。これらのツール間には機能の重複があったものの、一部の機能(カメラコントロールなど)は3個のツール中1個でしか利用できませんでした。インターフェイスが複数あることは、経験豊富な管理者であれば管理の効率化が図れますが、一方で、経験の少ない管理者からは、それぞれに複数のメニューを備えた複数のインターフェイスを扱う必要があるため、少々複雑であると捉えられるかもしれません。

管理者体験についての分析



出典: フロスト&サリバ

ロジクールRALLY BARアプライアンス(ZOOM ROOMS用)のANALYST GAUNTLET

続き

長所



- Androidベースのコンピュータを内蔵した一体型設計のため、Rally Barはコンポーネントの数が少なく抑えられており、効率的な設置、設定、管理が可能です。Rally BarもTapも配慮の行き届いたケーブル管理機能を備えているため、会議室にすっきりと設置できます。
- Zoom Roomsの設定手順(Tapとの連携とZoom会議室の作成)は直感的に実施可能です。アプライアンスモードのRally Barは複数の方法で管理できます。会議室内では、Tap会議室コントローラを使用して、また、Zoom Rooms管理者用ポータルおよびロジクール Syncクラウドベース管理ユーティリティを使用すればあらゆる場所から、管理が可能です。これにより、オンサイトの管理者による現地でのコントロールに加え、リモートからの技術サポートと管理にも対応しています。
- ロジクールRally Barはパワフルで、広いカバー範囲を備えています。拡張マイクポッドや追加スピーカーがなくても、さまざまな中会議室の広さや座席構成に対応できる適切な集音範囲と可聴範囲を備えています。
- Rally Barはロジクールの各種 アクセサリー(Rally Bar MiniおよびRally Plusでも利用可能)に対応しています。会議室の広さに関係なく使用できるものを標準としてそろえられるので、在庫管理要件の合理化が可能です。
- 合計5種類のカメラプリセットが用意されています(リモコンで2種類、Tapで3種類を適用可能)。会議室内の参加者が画角やフレーミングを調整しようとして物理的にカメラに触れることを、管理者は心配せずに済みます。TapまたはリモコンでPTZの調節や設定の変更を行えるので、各ユーザーのニーズを簡単に満たせます。

ロジクールRALLY BARアプライアンス(ZOOM ROOMS用)のANALYST GAUNTLET

続き

長所



- Rally Barに搭載されているロジクールRightSense AIテクノロジーは、人の姿の追跡、フレーミング、光補正を自動的に行い、会議室内やリモートからの参加者の音声をクリアに伝えます。RightSense AIにより、各会議室の定員に合わせて設定を調整する手間がある程度省かれて、ユーザー体験が向上します。また、管理者に日常的に届くサポート要請の件数が減少します。

短所



- Rally Barはサイズと重量が大きいため、壁面に取り付けるのであれば、場合によっては専門の設置サービスを依頼する必要があります。そうするとコストが余計にかかるうえ、会議室内における設置場所の自由度が下がります。
- Rally Barで運用されるZoom Roomsすべてに共通する問題は、会議室内からのコンテンツ共有が参加者のコンピュータ(またはスマートフォン/タブレット)との連携が前提になっていることです。このワークフローは、経験の少ない主催者や会議室内の参加者に混乱を引き起こすおそれがあります。また、管理者にとってはサポートチケットが増加する原因にもなります。

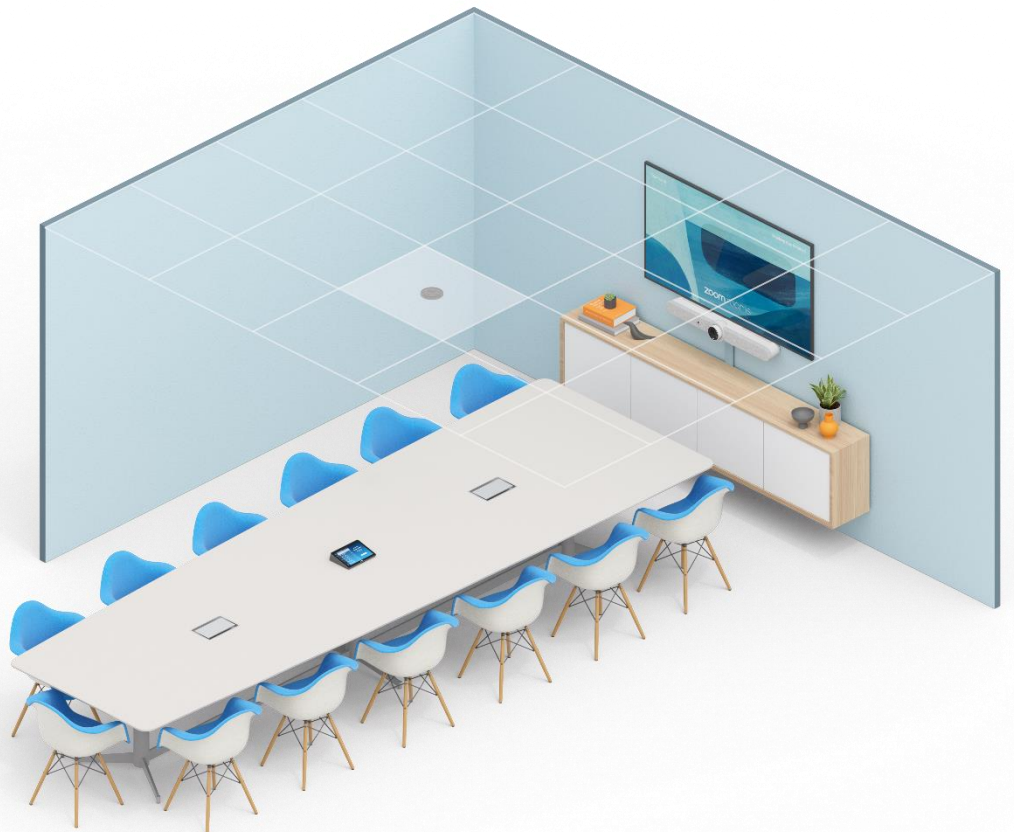
ロジクールRALLY BARアプライアンス(ZOOM ROOMS用)のANALYST GAUNTLET

続き

ユーザー体験

- 本評価の実施中、Rally Barは会議室内の参加者側とリモートからの参加者側の双方において、きわめてクリアなオーディオとビデオを提供しました。これはまさにロジクールが、最新の業界標準を活用した結果です。その業界標準とは、配慮の行き届いた設計、そして革新的なRightSense AIによる一連の自動化です。ハイエンドなRally Barでは、RightSense AIによって、シームレスな会議の実施が可能になっています。
- Tapコントローラを導入すると、会議の主催者が簡単かつ直感的に会議の予約、開始、参加、終了を行えるようになります。また、機能のコントロール(オーディオのミュート、ビデオの停止、音量調節、会議参加者の管理)も可能になります。ハードウェアとソフトウェアが密接に統合されていることは明白です。ただし、Zoom Roomsすべてに共通する制限によって、Rally Barはチャット機能とコンテンツ共有機能に完全かつネイティブに対応してはいません。しかし、そうした制限はトレーニングと使用経験によって簡単に克服できるものであるため、大半のユーザーにとっては大した問題とはならないでしょう。

ユーザー体験
についての
分析



ロジクールRALLY BARアプライアンス(ZOOM ROOMS用)のANALYST GAUNTLET

続き

長所



- 今回試したRally Barソリューションの音質は、きわめて高いものでした。ビームフォーミングマイクアレイ、アコースティックエコーキャンセレーション、音声区間検出、ノイズ抑制AIフィルターなどのオーディオテクノロジーで、クリアな通話が可能です。
- ロジクールRightSenseテクノロジー活用の自動カメラPTZにより、カメラがスムーズに操作されます。Rally BarではメインカメラがPTZに対応しており、会議室内の参加者をフレーム内に捉え続けます。
- Tapコントローラにより、会議の主催者はさまざまな会議コントロール機能やコラボレーション機能を簡単かつ直感的に使用できます。対応機能は、会議の素早い開始、参加者の招待、会議IDまたは個人別リンクを使用した会議への参加、プレゼンテーション、会議のリスト、電話による通話などです。主催者は会議中、オーディオとビデオのミュート、録音/録画、Rally Barのコントロール、フレーミングプリセットの選択、参加者の管理などを行えます。
- Zoom Roomsでは、固有機能の利用や使用方法の不一致などの問題があります(チャットやコンテンツ共有など)。しかし、Rally Barをアプライアンスモードで使用すれば、優れたコンピュータのパフォーマンスが発揮されるため、ユーザーが自身のコンピュータでメモを取ったり、コンテンツ共有やチャットをしたりできます。

短所



- Zoom Roomsソリューションの既知の欠点として、コンテンツ共有をするには、別の会議室用コンピュータまたはユーザーのデバイスが必要になる点があります。主催者はTapコントローラを使用してコンテンツ共有を開始できます。その際、コンテンツの共有元は、ZoomブラウザまたはデスクトップアプリからRally Barと連携するよう、操作を促されます。コンテンツ共有プロセスはシームレスとは言えず、使用を始めたばかりの頃には特に煩雑に感じられました。
- Zoom Roomsすべてに固有の欠点としては、会議チャットがZoom Roomsユーザーにとってインタラクティブではなく、読み取り専用であることも挙げられます。会議室内の参加者は、Tapコントローラまたは会議室内モニターに表示された会議チャット内のリンクをクリックすることも、チャットメッセージの送信/返信することも不可能です。これらの動作を行うには、別のコンピュータやモバイルデバイスから会議に参加する必要があります。

出典: フロスト&サリバ

ロジクールRALLY BARアプライアンス(ZOOM ROOMS用)のANALYST GAUNTLET

続き

分析のまとめ

- インテリジェントなRally Barは、ビデオ会議用エンドポイント機器の未来を示しています。そのコンポーネントと機能により、Rally Barは市場で強い独自性を放っています。またそのため、価格だけを見て単純に他製品と比較することはできません。しかし当社は、この価格は適正なものであると考えます。ロジクールは、現在、そして将来に役立つ機能を組み込んでRally Barを開発しました。AIや自動化、高性能なオーディオ/ビデオコンポーネントを搭載し、モダンなデザインを採用したZoom Rooms用アプライアンスソリューションは、豊富な導入オプションと機能を提供します。Rally Barは、Zoom Roomsソフトウェアとネイティブに連携するため、設置、管理、使用が簡単で、中規模のZoom Rooms用会議室に最適なロジクールソリューションです。

ロジクールRally BarのZoom Rooms用アプライアンスモードのさらなる詳細については、[こちらをクリック](#)してください。